

受難の主日

マルコ 15・1-39

2015.3.28 18:30 ミサ

マルセリーノ・フォンツ

(クラレチアン宣教会司祭)

今日の典礼ではどのような呼びかけがされているのでしょうか。聖週間を過ぎずにあたり、わたしたちはイエス様と共にエルサレムに入り、イエス様と共に歩いていくという呼びかけではないのでしょうか。イエス様が歓迎されてエルサレムに入ったときに、たくさんの人々が従っていました。しかし、その後どうなったのでしょうか。ほとんどの人々がイエス様を捨ててしまった、離れてしまったということを、やはり忘れてはいけません。今日の典礼の呼びかけは、ただイエス様と共にエルサレムに入るだけではなく、最後までイエス様と共に歩いていくように呼びかけられているのではないかと思います。言い換えれば、わたしたちがイエス様の復活に与るためには、イエス様の受難と死にも与る必要があります。枝の主日の典礼によって、これからわたしたちが教会と共に記念していく出来事、その典礼に与るように呼びかけられています。それは特に、聖木曜日から復活徹夜祭までの典礼です。これは典礼の中で頂点です。わたしたちにとって信仰の根本的な真理なのです。

イエス様の復活は、イエス様の受難と死によって意味をもつのです。イエス様の復活は、受難と十字架の上での死がなければ同じ意味はありません。また、イエス様の受難と死は、復活がなければ意味のない出来事に終わってしまったでしょう。この3つの出来事は切り離すことができないのです。今日の典礼でわたしたちがこれから記念していくのはその真理なのです。典礼に与る目的は、わたしたちが生活の中で、生き方の上で、キリストと共に歩いていくためではないかと思います。わたしたちが生きていく上で、キリストの受難と死に与ってキリストの復活に与ることができるための呼びかけなのです。

しかし、イエス様がなさったことを理解するためには、まずイエス様はそれをどのような心で行ったか、イエス様の心を見つめるのが聖木曜日の典礼なのです。ヨハネ福音書の中に書かれているように愛をもって、人々に、自分の弟子たちに、愛を示してくださったのです。イエス様はどのような心で受難と、その苦しみと、また、死を引き受けられたのか、それを理解しないと、本当の出来事の意味も理解できないと思います。これはすべて、イエス様の愛を表し

ている出来事なのです。そして、イエス様の愛によって示されたのは、天の父の愛なのです。その愛を忘れてしまったら、わたしたちにとってその出来事の意味も分からなくなるでしょう。だから、これから始まる聖週間の典礼はわたしたちにとって大事な典礼なのです。皆さんは毎日その典礼に与ることができるかどうか分かりませんが、もちろん、できれば聖木曜日から復活徹夜祭までその典礼に参加するように呼びかけたいのですけれども、その典礼に与ることができなくても、わたしたちにとってこの一週間は聖なる週間です。その間に、その出来事を心に留めて、思い巡らして一週間を過ごすように呼びかけられていると思います。だから、そのためにはまずキリストの愛に心を開いて、キリストがわたしたちのために引き受けてくださった苦しみ、またその死の出来事によって、わたしたちが新たに自分の信仰を支えられて、キリストの復活の喜びと希望に与ることができるように祈らなければなりません。

聖週間の典礼は、一年間の典礼の頂点です。これは、わたしたちの信仰の根本的な真理なのです。わたしたちがキリストの弟子としてその神秘に生きるように招かれています。そのために、今日の福音の朗読は受難の物語が朗読されました。人生の中にも、誰も避けられない、逃れられない苦しみがあります。自分の人生だけではなく、わたしたちの周りにも、その苦しみが、一人の間として避けられない現実なのです。その現実をわたしたちがどのように受け止めるか、わたしたちにとってそれはどういう意味があるか、それを理解するためにイエス様の方に目を向けなければならなりません。わたしたちの目の前に十字架につけられたイエス様の姿を置いて、わたしたちもその生き方の上でキリストと共に歩むことができるように祈りたいと思います。そして、それによって本当にキリストの復活の喜びの希望にも与ることができるように、いつも喜びと希望をもって、どんな場に置かれてもその心で歩むことができるように、今日新たに、全教会と共にイエス様とエルサレムに入って共に歩んでいくように呼びかけに答えていきたいと思います。

このように、聖週間をできるだけ典礼に参加してキリストと共に過ごすことができるように願いながら、今日のミサを続けましょう。